

第18期定時株主総会 質疑応答概要および事前質問へのご回答

株主総会における質疑応答概要

株主総会における、株主さまとの質疑応答の概要について、ご案内申し上げます。

【質問①】

化石燃料に対するファイナンス方針、MUFG のカーボンニュートラルに向けた取り組みについて

【回答】

MUFG ではファイナンスにおいて、環境・社会に係るリスクを管理する枠組みとして、「MUFG 環境・社会ポリシーフレームワーク」を制定しています。電力(石炭火力発電)や、石油・ガス(オイルサンド、北極開発、シェールオイル・ガス、パイプライン)や石炭採掘(一般炭)等、気候変動を含む環境・社会への影響が懸念される特定のセクターについては、ファイナンスの対象となる事業の環境・社会に対するリスクまたは影響を十分に考えた上で、個別の与信を慎重に判断しております。

MUFG では、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを経営の最重要課題の一つと認識し、2021年の「カーボンニュートラル宣言」以降、脱炭素化に向けた取り組みを強化しております。「電力」や「石油・ガス」セクターでは、投融資ポートフォリオのGHG排出量の2030年目標を設定、排出削減をモニターしてまいります。

電力の安定供給とカーボンニュートラルの両立に向けて、お客さまへのエンゲージメントを確りと行い、トランジション支援を実施してまいりたいと考えております。

【質問②】

バイオマス発電に対するファイナンス方針と排出量の計算方法・削減目標の設定について

【回答】

バイオマス発電は日本のFIT制度や、EUタクソミーでも持続可能な発電方法として認められており、一律に融資を禁止することは考えておりません。

バイオマス発電は燃焼時のGHG排出に加えて、栽培や輸送におけるGHG排出、また燃料である植物の成長過程でのGHG吸収を含むライフサイクルでGHG排出が最小化されていることの確認が必要です。そのため、支援を検討する基準を定めた社内ルールに則って、ライフサイクルGHGや、国によるFIT認定、使用する燃料の食料との競合有無を注意深く確認しながら、融資の判断をしています。

木質バイオマス発電向けの融資は、MUFGのポートフォリオに占める割合が限定的であることを踏まえ、マテリアリティの観点から、現時点では排出量の計算や、削減目標の設定は行う予定はございません。

【質問③】**政策保有株式削減への取り組み、株式分割について****【回答】**

政策保有株式については、現在の中期経営計画(2021年度から2023年度)の3か年においても取得原価ベースで5,000億円の売却を目指しており、足元順調に推移している状況でございます。

株式分割につきましては、現在10万円ぐらいから単元株としてご購入が可能な価格となっており、個人の株主の皆さまも含めてご購入し易い単位になっていることから、現時点で株式分割は予定しておりません。

ROEを確りと引き上げることを目指し、2024年3月期の親会社株主純利益の目標を1兆3,000億円と掲げております。今後とも成長ストーリーをお示しすることで、皆さまに魅力ある会社だと思っただけけるよう努力をまいります。

【質問④】**三菱UFJ銀行の振込手数料改定について****【回答】**

昨今では、急速なデジタル化の進展の影響で、お客さまの非対面取引やキャッシュレス取引に対するニーズが高まっていること等もあり、現金を利用する機会は減少しております。

こうしたお客さまの行動様式やニーズの変化に加え、マネー・ローンダリング防止コストも増加していることから、振込手数料の一部見直しを実施させていただいております。

一方で、三菱UFJダイレクトの振込手数料は、今回の改定に先立ち、既に2021年10月に引き下げておりますので、ぜひこの機会にインターネットバンキングのご利用をご検討いただけますと幸いです。

引き続き、「お客さまの利便性」と「効率運営」のバランスを取りながら、安心安全かつ持続的なサービスのご提供に努めてまいります。

【質問⑤】**森林セクターに係る現地の環境や人権に影響を与えるような融資について****【回答】**

当社は、気候変動対応、環境保全を経営の最重要課題の一つと位置づけ、「MUFG環境・社会ポリシーフレームワーク」にて、森林を「ファイナンスに際して特に留意する事業」と定めております。

ファイナンスの検討に際しては、お客さまの環境・社会への配慮状況を精査しております。

また人権面での配慮という観点においては、融資の入口段階のみならず、融資実行後もお客さまと対話しながら、期中管理する枠組みを整えております。

【質問⑥】

外貨預金のサービス向上について

【回答】

お客さまのニーズが高い商品でございますので、MUFG としても適宜キャンペーンを実施し、お客さまに金利を還元するよう努めております。

これからも確りご要望に応じることで、外貨預金の使い勝手を強化してまいりたいと考えております。

【質問⑦】

採用方針・採用活動について

【回答】

事業戦略遂行のため必要な人材を安定的に確保すべく、MUFG に関心を持つ全ての方を対象に、新卒採用・キャリア採用とも着実に進めてまいります。

まず、新卒採用につきましては、できるだけ MUFG の業務の内容や魅力をお伝えする機会を設けるようにしております。キャリア採用においては、転職マーケットにおける MUFG の認知度を高め、我々の目指す姿に共感してくださる人材にできるだけ応募いただけるよう工夫を重ねているところでございます。

引き続き人材ポートフォリオの多様化、強靱化を進めてまいりたいと考えております。

【質問⑧】

三菱 UFJ 銀行の今後の店舗戦略について

【回答】

デジタル化の進展の影響で、お客さまの非対面取引やキャッシュレス取引に対するニーズが高まっていることからインターネットバンキングなど非対面チャネルを拡充しております。

一方で、店舗にご来店されるお客さまが大幅に減少したことから、各地域での店舗統廃合を進めてきましたが、統廃合フェーズは終了です。

今後はお客さまのニーズに寄り添い、新形態での店舗出店等、様々なタッチポイントを拡充してまいります。例えば、今年 2 月には JR 東日本と提携し、駅ナカでオンライン運用相談ができる相談ブースを設置しております。

社会の変化・お客さまのニーズの変化に確り合わせ、また効率的な運営とのバランスにも配慮しながら取り組んでまいります。

【質問⑨】

三菱 UFJ 銀行の ATM における硬貨取扱手数料の今後の方針について

【回答】

現在、硬貨取扱手数料について決定した事実はありません。その一方で、ATM ご利用者の方も近年減少しておりますので、ATM のご利用状況をよくみながら検討してまいりたいと考えております。

【質問⑩】

コーポレート・ガバナンス態勢図における会計監査人の位置づけについて

【回答】

招集ご通知のコーポレート・ガバナンス態勢図に会計監査人の記載がないのご指摘については、今後の検討に取り入れてまいりたいと考えております。

監査委員会との関係で補足をいたしますと、会計監査人とは常時密に連携をとっておりますが、一方で会計監査人の職務の遂行が仮に困難になるような場合、あるいは法令等に基づいてその適格性や独立性を満たせない場合においては、監査委員会が解任や不選任の議案を株主総会に提出することになります。監査委員会では毎年定期的に会計監査人を評価しており、現在、問題となるような事象は確認されておりません。

今後も適切な会計監査が行われるように、監査委員会としても、確りと監視、監督をしてみたいと考えております。

【質問⑪】

ROE 向上に向けた取り組みについて

【回答】

株価上昇にはROEの向上が必須であり、MUFGではROEを財務目標の中心に経営を進めており、中期経営計画の財務目標であるROE7.5%達成に向けて取り組んでおります。

今後とも稼ぐ力を引き続き伸ばし、分子である利益を着実に増加させるとともに、分母の資本をしっかりとコントロールすることで、ROEを向上させていきたいと考えております。

【質問⑫】

外貨預金金利の状況について

【回答】

各国の外貨預金金利を決定する際には、政策金利の動向並びに、我々の資金繰りの状況、他のメガバンク・地銀・ネット銀行等の動向を踏まえ、総合的に判断をしております。一方で、店頭金利だけでなく、定期的に外貨預金をお預かりするキャンペーンを実施し、キャンペーン金利も提示させていただいております。

今後もお客さまのニーズを確りと踏まえながら、確りとした運営を行ってまいりたいと考えております。

事前質問へのご回答

株主総会に先立ち、お寄せ頂いた事前質問のうち、株主の皆さまのご関心が高いと思われる事項についてご回答申し上げます。

【質問①】

PBR1 倍超えに向けた当社の取り組みについて

【回答】

3 月末に東京証券取引所から、プライムおよびスタンダードの全上場会社宛に、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」との要請が出され、PBR1 倍が 1 つの目安とされています。

当社の PBR が 0.7 倍前後と 1 倍を下回って推移している状況は、当該要請にもかかわらず、経営として強い問題意識を持っています。

株主からお預かりした資本を確りと成長させるべく、現中計では ROE を経営の中心に据えて運営しています。

PBR は ROE との相関が高く、資本の健全性を維持した上で、規律ある資本運営を行いながら、ROE 向上に努めることで、PBR の改善にも繋げていきたいと考えております。

足元、経費とリスクアセットを確りとコントロールしながら、稼ぐ力を着実に伸ばせており、今年度の ROE 目標 7.5% は必達したいと考えております。

中長期的には ROE を 9% から 10% に引き上げることを目指し、更なる収益性向上に取り組むとともに、確りとした成長ストーリーをお示しすることで株式市場からの評価を高めていきたいと考えております。

【質問②】

人材の多様性、特に社内女性の登用について

【回答】

当社はサステナビリティ経営の優先 10 課題の一つに「インクルージョン&ダイバーシティ」を掲げ、多様な価値観やバックグラウンド、就業意識を持つ社員が互いに尊重・切磋琢磨し、一人ひとりが成長・活躍できる組織・カルチャーの醸成に取り組んでおります。

特に社内女性の登用に向けては、先ほどご説明の通り、女性マネジメント比率目標を引き上げた上で、女性のキャリア形成やスキルアップを一層支援しております。具体的には、役員による女性登用者・候補者へのメンタリングプログラムや、全部室店長向けのダイバーシティ・マネジメント・フォーラム、仕事と家庭の両立支援などを行っております。

女性の役員登用も進めており、3 月末時点で、持株会社と主要子会社における女性役員は計 19 名となっております。

多様性は、“変化の時代”に対する強靱性を与えてくれる大切な価値観であり、今後も多様な人材の登用・育成に取り組んでまいります。

【質問③】

三菱 UFJ 銀行の国内店舗戦略について

【回答】

三菱 UFJ 銀行は、日本全国に幅広い営業基盤を有しております。

お客さまの非対面取引やキャッシュレス取引に対するニーズの高まりを背景に、店舗に来店されるお客さまが大幅に減少したことから、各地域で店舗の統廃合を進めてきましたが、統廃合フェーズは終了です。

今後はインターネットバンキングなどの非対面の取引チャネルの拡充に加えて、国内各地域の強固な営業基盤の維持、及び新形態での店舗出店の検討や

対面でのコンサルティング機能の強化に積極的に取り組み、お客さまとのタッチポイントを拡大してまいります。

【質問④】

配当性向 40%への累進的な引き上げについて

【回答】

2022 年度は 1 株当たり配当を 4 円増配し、配当性向は 35.2%となりました。2023 年度は、中期経営計画で掲げた配当性向 40%の実現に向けて、過去最大となる 9 円増配の年間 41 円の予想としております。親会社株主純利益目標 1 兆 3,000 億円を前提に、モルガン・スタンレーの持分法適用決算期の変更影響(試算値)を除いた場合の配当性向は約 40%となります。

今後も「株主還元の基本方針」に則り、資本の健全性や成長のための投資との最適バランスを検討した上で、配当を基本として株主還元の充実に努めてまいります。

【質問⑤】

株主優待制度について

【回答】

株主優待制度の廃止は株主の皆さまに対する利益還元の公平性の観点から、慎重に検討、決定したものであり、現時点で株主優待制度を復活させる予定はございません。

今後も「株主還元の基本方針」に則り、資本の健全性や成長のための投資との最適バランスを検討した上で、配当を基本とした株主還元の充実に努めてまいります。

【質問⑥】

社外取締役に期待する役割と独立性について

【回答】

社外取締役は、法的な責務に加え、独立した客観的な立場から執行役の職務執行を監督する立場にあります。

当社の社外取締役には、各々の高い見識や専門知識に基づき、執行へのモニタリング機能を果たすとともに、経営陣に中長期的な成長を促す助言・支援を行う役割

を担っていただくことを期待しております。

なお、会社法や東京証券取引所の独立性基準等を参考に、当社の独立性判断基準として、現在および過去において、当社の売上高2%以上を占める主要取引先や、総議決権の10%以上の主要株主の業務執行者ではないこと等を定めております。現在の社外取締役はこの基準を満たしていることから、ガバナンス上も独立性に問題はないと考えております。また、インサイダー取引未然防止の枠組も整えており、取締役の株式保有状況を適切に管理しております。

【質問⑦】

運用商品の勧誘・販売体制について

【回答】

MUFG では、各種ガイドライン等に則り、商品販売の都度、お客さまのご年齢、リスク許容度および投資方針、知識・ご経験、資産状況等を確認させていただいております。販売時には、お客さまのご意向確認を行った上で、適切な商品群から選択する仕組みとなっており、適合性を確認した上でお客さまに適切に販売させていただいております。

また、MUFG では、中長期目線での提案活動を推進しており、各種リスクに係る丁寧な説明や十分なアフターフォローを通じて、多くのお客さまに「安定した運用成果」を実感していただけるように努めております。

【質問⑧】

本人による手続きが困難なお客さまへの対応について

【回答】

MUFG 各社では、全てのお客さまが快適に安心してご利用いただけるよう、お客さまのご事情に寄り添った対応や店舗づくりに努めております。

またご本人によるお手続きが困難なお客さまにつきましても、ご本人の意思確認をさせていただき、一定のご条件を満たせば代筆にてお取引をしていただけるなど対応をしております。

お客さまからお預かりした大切な資産を守るため、ご本人以外の方と取引をするには注意すべきことが多々ございますが、可能な限りお客さまのご事情に応じた対応を行えるよう努めてまいります。

個別のご事情等についてはお取引店までご相談いただけますと幸いです。

【質問⑨】

三菱 UFJ ニコスにおけるシステム統合状況と今後の成長戦略について

【回答】

三菱 UFJ ニコスのシステム統合は、並存する3つの基盤システムを統合することにより、システムの安定性向上や、コスト面・効率面の改善を図るプロジェクトです。2030年の統合完了に向け、現時点では大幅なビハインド等も無く進捗しております。大

規模、かつ長期に渡るプロジェクトでございますので、引き続き慎重に対応してまいります。

本システム統合により、様々なコストの削減が可能となるほか、ビジネス環境変化に柔軟に対応出来る拡張性、社会インフラとしてのさらなる安全性・安定性の確保を実現してまいります。お客さまがキャッシュレス決済に求める要素は多様化し、使い分けも進む中、商品ラインナップの更なる拡充や商品の磨き込みを行っていくことで、新規会員獲得や収益機会創出を目指してまいります。

【質問⑩】

サイバーセキュリティ強化の取り組みについて

【回答】

MUFG ではサイバー攻撃等に関する IT リスクをトップリスクの一つとして位置づけ、経営主導によるサイバーセキュリティ対策を推進しております。

外部からの攻撃対策として、MUFG ではサプライチェーン攻撃を含むサイバー攻撃の脅威に関する情報を収集・分析する専担組織の組成や、現実世界で実際に発生している攻撃を動的にシミュレーションする「脅威ベースのペネトレーションテスト (TLPT)」を継続的に実施するなどの対策を行い、日々の防衛に努めております。

当社といたしましては、株主の皆さまのご期待にお応えできるよう、企業価値向上に向けて取り組んでまいり所存です。今後とも株主の皆さまのご理解とご一層の支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上